

岡山県立図書館 第5次中期サービス目標（案）について

1 策定の趣旨・位置付け

- ・第4次中期サービス目標期間（令和3～7年度）の満了に続く、次の5か年のサービス目標と具体的取組を定めるものである。
- ・「図書館法」「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」等の法律や基準等に準拠するほか、『第4次晴れの国おかやま生き生きプラン』、『岡山県教育大綱』『第4次岡山県教育振興基本計画』等に準拠したものとする。

2 計画期間

令和8年度から令和12年度までの5か年間

3 第4次中期サービス目標の成果と課題

(1) 成果

- ・県民に開かれた図書館として、来館者数と個人貸出冊数は、都道府県立図書館の中で上位を維持している。
- ・県域の中核図書館として、市町村立図書館や学校図書館への資料貸出とともに、司書向け専門研修の実施や、県立図書館司書が担当の市町村立図書館を伴走支援する「市町村担当者制度」などを通し、県内の図書館振興に努め、公立図書館における県民一人当たりの貸出冊数は、都道府県単位で上位を維持している。
- ・調査・研究センターとして、来館やオンラインによるレファレンスなど、きめ細かな対応により、レファレンス受付件数は、都道府県立図書館で上位を維持している。
- ・デジタルネットワークに対応する図書館として、全国の図書館に先駆けて構築した電子図書館システム「デジタル岡山大百科」の充実に努めた。
- ・資料保存センターとして、豊富な蔵書の整備により県民ニーズに応えるとともに、市町村立図書館等から移管資料の受け入れを進めた。

(2) 課題

- ・開館以来、様々なサービスを提供し続けているものの、県民ニーズの多様化やスマートフォンをはじめとする情報機器の普及、感染症の影響などの要因により利用は低下傾向にある。
- ・市町村立図書館の利用登録者数は県全体で6割を超えているものの、全県民に図書館サービスが浸透しているとは言えないため、電子書籍といった非来館型サービスの拡充が求められている。
- ・県内では1自治体を除き26市町村で図書館が整備されているものの、資料費の削減や職員の非正規化などの課題を抱えているところもあり、自治体間の図書館サービスの格差も懸念され、市町村立図書館への更なる支援充実が期待されている。
- ・読書推進や探究学習など子どもたちの学びに重要な役割を果たしている学校図書館の活性化に向け、更なる支援充実が期待されている。

4 第5次中期サービス目標の概要

2040年頃の目指すべき岡山県立図書館の姿を示す将来の長期構想（通称：オカリブビジョン）と、その実現に向けた今後5年間の具体的取組という2つで構成している。

（1）岡山県立図書館のこれからのカタチ（通称：オカリブビジョン）

本県の総合的な計画である「第4次晴れの国おかやま生き生きプラン」が目指す2040年代半ばの「すべての県民が明るい笑顔で暮らす生き生き岡山」を念頭に、2040年頃までに目指す岡山県立図書館の姿を示している。

未来に「つながる・ひろく・いきる」を全体の大きな指針とし、その実現に向けて、5つの基本的性格を掲げ、それぞれに図書館の機能とそれを発揮するするためのサービスの方針を4つ、それにより実現したい姿をそれぞれ2つまたは3つ掲げている。

＜5つの基本的性格＞

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1 県民に開かれた図書館 | 「だれもが 自由に いつでも」 |
| 2 県域の中核となる図書館 | 「つながる ひろがる ささえあう」 |
| 3 調査・研究センターとしての図書館 | 「まなぶ みつける つくりだす」 |
| 4 子どもの読書と学びを支える図書館 | 「よむ はぐくむ 未来をえがく」 |
| 5 資料保存センターとしての図書館 | 「のこす つたえる わかちあう」 |

（2）第5次中期サービス目標

上記オカリブビジョンの5つの基本的性格ごとに重点目標1つと推進目標2つを設け、目標ごとの具体的な取組を優先度順に記述している。それぞれは独立したものではなく、互いに関連し合い、相乗効果によって、より充実したサービスの提供を目指すものである。

また、目標ごとに指標を設定し、毎年度の到達水準を数値で把握し、進捗状況を公表する。なお、指標は成果指標（アウトカム指標）を中心に設定している。

5 今後のスケジュール

- | | |
|-------|--------------|
| 2月26日 | 岡山県立図書館協議会 |
| 3月13日 | 教育委員会（資料提供） |
| 4月 | 第5次サービス目標の開始 |